

## 地域運営組織をめぐって—いくつかのトピックス—

明治大学 小田切徳美

## 1. 「小さな拠点」と地域運営組織（別稿『小さな拠点』と農山村再生」参照）

## 2. 地域運営組織と住民意識

- ・行政の対応次第で発生しやすい住民の「やらされ感」
- ・「やらされ感」から始まる組織の停滞  
やらされ感→負担感→部会の空洞化→事務局依存→事務局の疲弊→活動停滞
- ・「やらされ感」の発生を回避する対応
  - ①設立段階で急がない対応（「行政の時間軸」と「地域の時間軸」の認識）
  - ②活動始動時の「小さな成功体験」（「小さな困り事」への対応）の支援

〈事例〉新潟県糸魚川市・上南地域づくり協議会

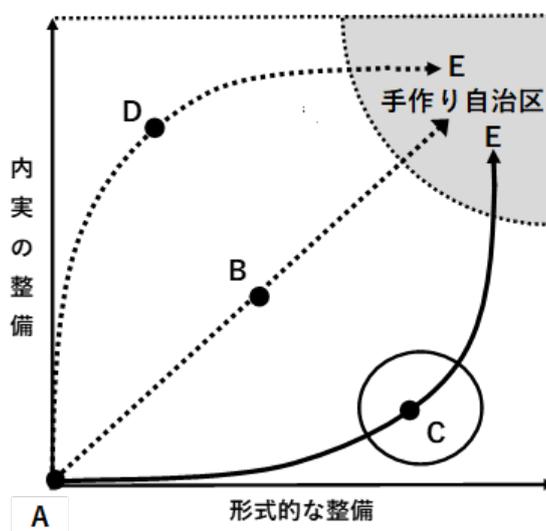
- ・生活支援チームによる「なんでも屋」の取り組み
- ・1回100円で諸活動（高齢者の「遠慮」のないように有料化）
- ・「包丁研ぎ」活動で真価を発揮（年間200丁以上）



## 3. 地域運営組織形成のプロセスデザイン

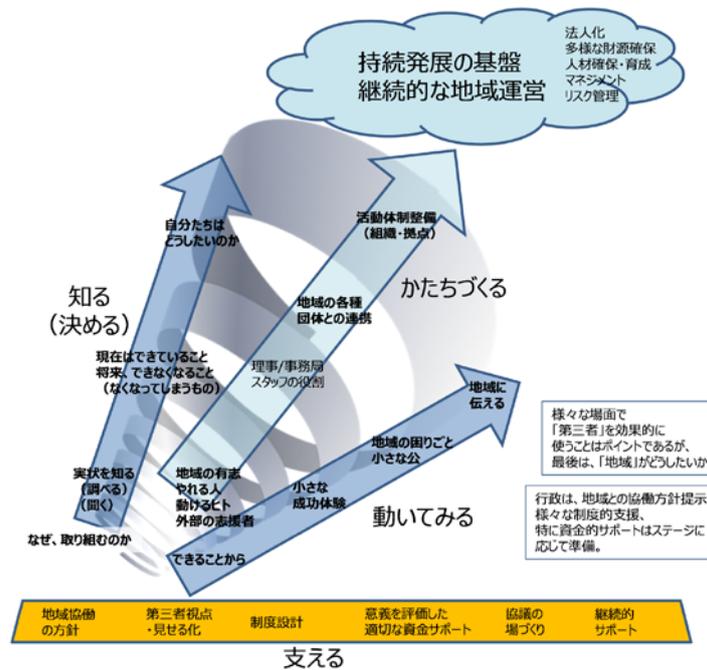
- ・多様な形成プロセス（形式先行型、内実先行型、形式・内実併進型）

図 地域運営組織の形成プロセス



- ・量的に多数を占める形式先行型の内実整備が現場課題（「C」点から失速するケースも）
- ・「C」点からの失速する事例の問題点＝内発性・多様性・革新性の欠落
  - ①地域の当事者意識の醸成を怠る（内発性の欠落）
  - ②マニュアル・他地域事例の当てはめ（多様性（確保）の欠落）
  - ③既存組織への依存（革新性の欠落）

- ・逆に「C」点からは「内発性・多様性・革新性」の確保がポイント
- ・スタート時点から望ましい「プロセスデザイン」を意識することが重要  
動く－形作る－知る（決める）の往復作業  
(総務省『地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業・研修用テキスト』2017年3月)



#### 4. 地域運営組織の多様性

① 地域的多様性＝過疎地と非過疎地（過疎地でより多角化）

表 地域運営組織の活動内容（全国）

	合計	地域指定別	
		過疎地域	非過疎地域
高齢者交流サービス	45.7	41.5	<b>48.5</b>
声かけ、見守りサービス	37.4	37.0	36.2
体験交流事業	31.6	<b>34.1</b>	27.7
活動実施割合（％）	23.5	<b>30.6</b>	19.3
公的施設の維持管理（指定管理など）	11.4	<b>18.6</b>	8.5
名産品・特産品の加工・販売（直売所の設置・運営など）	8.3	7.8	8.7
弁当配達・給配食サービス	7.9	6.6	9.8
家事支援（清掃や庭木の剪定など）	7.5	<b>9.6</b>	6.7
空き家や里山などの維持・管理	7.4	7.6	7.1
コミュニティバスの運行、その他外出支援サービス	6.4	5.1	7.0
保育サービス・一時預かり	6.3	<b>8.7</b>	5.7
買い物支援（配達、地域商店の運営、移動販売など）	5.5	3.6	6.4
送迎サービス（学校、病院、その他高齢者福祉施設など）	4.3	5.6	2.8
雪かき・雪下ろし	3.8	4.4	2.7
市町村役場の窓口代行	30.2	<b>26.4</b>	27.7
その他	3,071	768	1,500
総組織数（団体）	2.4	2.5	2.2
1組織当たり活動数			

注：1）資料＝総務省「暮らしを支える地域運営組織に関するアンケート結果」（同省『暮らしを支える地域運営組織に関する調査研究事業報告書』（2017年）に記載された数値より算出。アンケートは2016年10～11月に実施。対象は全市区町村（回収率99％＝1741市区町村）

2）「地域指定別」に「過疎地域」「非過疎地域」他に「一部過疎」「みなし過疎」があるが、それらの表示は省略した。

3）「合計」を2ポイント以上上回る場合にゴテックとした。

②組織的多様性

- ・一体型と分離型
- ・分離型に特に多様な形態

地域運営組織というより「地域運営ネットワーク」

〈事例〉岡山県津山市旧阿波村・「あば村」

＝運営協議会＋連合町内会＋NPO＋社団法人＋合同会社

その課題は法人化というよりも連携による運営方式の確立（ネットワークモデル）

あば村運営協議会組織図

